

事務事業の見直し意見

No14 学校プール

総合評価	学校プールについては部分廃止
評価コメント	<ul style="list-style-type: none">・プール槽の老朽化が進んでおり、今後、改修に経費がかかる。・全国的にも学校プールを廃止して民間のプールを使用する例が増えてきている。民間のプールの場合、屋内プールがほとんどであり、これを利用することのメリットとして、天候や季節に左右されずに使用できることから、自由に時間割を設定できることが挙げられる。・廃止を検討する中で、全小中学校において学校プールの共用や民間のプールを活用されたい。・廃止を決定するにあたっては、プールまでの移動時間や、移動にコストがかかる場合はそのコストと改修のタイミングを十分検討されたい。・また、各校の立地条件を考慮し、プールの共用や民間施設を利用した場合の費用対効果を検証し、極力費用のかからない効率的な方法で実施されたい。
担当課	教育総務課
R1 予算額	30,008 千円

事務事業の見直し意見

No15 図書館運営

総合評価	図書館運営については見直し
評価コメント	<ul style="list-style-type: none">・図書館にかかる経費を下げるには、図書館数を減らすか運営方法を見直すかのどちらかになるが、生駒市では利用者も多いことから、図書館数を維持し運営方法を見直すべきである。・見直しにあたっては、経費のうち多くを占める人件費について見直す必要がある。・図書館法の改正により、図書館は地域の拠点としての役割が重視されるようになってきていることから、本館、分館のあり方について検討し、他市を参考に業務内容や正規職員と臨時職員との役割分担を見直すことで、適正な職員配置を進める必要がある。・図書館分館の運営については、本館によるバックアップを受けながら、ニーズを的確に把握し、市民の力を借りて時代に合った地域に根付いた図書館として適切な運営を行うよう、市民を含めた形での図書館運営の可能性を検討されたい。・分館については、従来の図書館の「静かに利用しなければならない」という固い印象より、もっと気軽に利用できる場所としてコミュニティ施設の一部としていくという方法も検討できる。・生駒市の図書館は読書に熱心な利用者が多いと見受けられるが、鹿ノ台分館については、地勢上利用者が鹿ノ台地区に限定されていることから、運営方法を見直し、その他の分館についても、順次、運営方法について見直しされたい。
担当課	図書館
R1 予算額	109,788 千円

事務事業の見直し意見

No18 休日夜間応急診療業務

総合評価	休日夜間応急診療業務については見直し
評価コメント	<ul style="list-style-type: none">・市立病院と休日夜間応急診療所は、同じ場所にある方が市民にとって利便性が良くプラスになることから、中長期的には、市立病院に一本化できるよう検討し、市民にとって安心して受診できる体制づくりを構築されたい。また、その際、財政負担の低減を図られたい。・一本化の実施にあたっては、市立病院で新たに医師を確保する等体制を整える必要があるが、体制の構築には時間を要することから、まずは休日夜間応急診療所と市立病院の連携を図り、体制づくりに努められたい。
担当課	健康課
R1 予算額	155,640 千円

事務事業の見直し意見

No43 公立幼稚園の見直し

総合評価	公立幼稚園については見直し
評価コメント	<ul style="list-style-type: none">・生駒市域全体の公立幼稚園の園児数が平成 26 年度の 1,531 人から令和元年度の 929 人と約 40%減少している中、園児数がピーク時のままの公立幼稚園数で存置されている。また、私立幼稚園の園児数は横ばいであるのに対し、公立幼稚園の園児数は減少していることから、公立幼稚園のニーズが減少していることがわかる。・また、令和元年 10 月からの幼児教育・保育無償化により、私立幼稚園と公立幼稚園の保育料の差が縮小することで、さらに私立幼稚園のニーズが高まることが想定される。・園児数が減少しているにも拘わらず施設数を維持している現状は、少ない園児数でのクラス運営となり就学前教育としての機能が十分ではない上に、各園には園長や一定数の職員を配置しなければならず、必要以上の経費がかかっている。・以上のことから、多様なニーズに応えるために一定数の公立幼稚園は維持しつつ、私立幼稚園への転換を進められたい。・また、現在取組まれている公立・私立幼稚園間の情報共有の場である園長会は、生駒市の就学前教育の進展を図るため、引続き取組まれたい。
担当課	こども課
R1 予算額	593,246 千円

事務事業の見直し意見

No31 幼児 2 人同乗用自転車購入補助金

総合評価	幼児 2 人同乗用自転車購入補助金については廃止
評価コメント	<ul style="list-style-type: none">・国庫補助金が交付されることから始めた事業であり、国庫補助金が交付されなくなった今も、市が全額負担してまで実施すべきではない。・補助対象の要件として 1 歳以上 6 歳未満の子どもがいることとしている。同乗用自転車としては数年しか利用できないこととなるが、自転車の法定耐用年数が 2 年と短いことを考えても補助する意義が薄いことから、廃止すべきである。・補助金については廃止とするが、自転車安全講習会については引き続き実施されたい。
担当課	防災安全課
R 1 予算額	1,200 千円

事務事業の見直し意見

No36 IKOMA SUN FESTA

総合評価	IKOMA SUN FESTA については見直し
評価コメント	<ul style="list-style-type: none">・ 来場者が多く、アンケート結果から「生駒のイメージが良くなった人の割合」も高いことから、イベントとしては一定の成果が見られる。・ しかし、本事業の目的である「市民のシビックプライドの醸成」と「市外の方の関心度・イメージの向上」については、物販が中心のイベント内容が「生駒市民としてのシビックプライドを醸成する」ものとは判断し難く、目的とイベント内容が合っていない。また、年1回、1日だけのイベントで、市民のシビックプライドの醸成につながるか疑問である。・ 生駒のシンボルである生駒山でイベントを実施することには意味がある。このイベントを目的に沿ったものにするためには、イベントの来場者に、豊かな自然を感じてもらい、生駒らしさとはなにか、生駒のどこが好きかを考えてもらう機会とすべきであり、市の事業をPRする場を設けるなど、他課と連携した仕掛けづくりが必要である。・ 厳しい財政状況の中、事業の精査・見直しが求められており、本来市民力を期待すべきである本イベントを、市が開催する必要性について見直すべきである。・ 更なる生駒の魅力の発信のためには、全てを業者に委託するのではなく、実行委員会方式など、市民や事業者参加型の運営を検討し、市民や事業者が自発的に運営し、行政がバックアップする形とされたい。・ シビックプライドを醸成するという目的のもと、市民がまちづくりに参加するきっかけとなるイベントとなるよう、担当課の提案のような、市民、事業者によるミニ SUN FESTA などを実施することで市民力を育て、将来的には、市民、事業者による SUN FESTA の運営につなげられたい。

	<ul style="list-style-type: none">・事業費については、委託料の削減や出店料の増収を図るとともに、参加者負担についても検討されたい。また、指定管理者へ支出している会場費についても再検討されたい。・見直しは、地方創生推進交付金が終了となる令和3年度までにされたい。
担当課	いこまの魅力創造課
R1 予算額	5,498 千円

事務事業の見直し意見

No40 図書館読書活動推進事業

総合評価	図書館読書活動推進事業については見直し
評価コメント	<ul style="list-style-type: none">・図書館としての役割は、図書館法の改正により、本の貸し出しだけでなくまちづくりの拠点として近年変化しつつある。・生駒市は読書意欲が高い人が多く、図書館として読書活動推進事業を行うことで市民の活躍の場を創出するなどの取組を行っている。時代に合った形での市民の学習する意欲を支えるために、図書館事業全体の位置づけを明確にしたうえで、図書館が実施すべき事業であるか、市民団体が自主事業として実施すべき事業であるかの精査をし、図書館を市民の場として活用されたい。・担当課が示している事務事業の改善を行うとともに、引き続き経費の削減に努められたい。・図書館運営と密接に関係する課題である。
担当課	図書館
R1 予算額	1,880 千円

事務事業の見直し意見

No41 音楽イベントの統合検討

総合評価	音楽イベントの統合検討については見直し
評価コメント	<ul style="list-style-type: none"> ・「市民みんなで創る音楽祭」は、音楽を切り口としたまちづくりを進めるため、市の主催として市民団体に運営を委託して実施している。 ・委託方式では、コスト意識が低くなり、また、事業内容が固定化する懸念がある。 ・入場料について、プロの演奏家を招いて実施している割には、価格が低く設定されている。 ・「市民みんなで創る音楽祭」については、吹奏楽が盛んでレベルが高く、音楽に親しむ市民が多いことから維持を前提とし、市民の演奏の場、活躍の場を広げるなど、より市民が演奏を楽しめる、市民みんなで創るというイベントの本来の趣旨に沿った形に見直すべきである。 ・また、本来市民主体の実行委員会等で実施すべきイベントと考えられることから、現行の市が主体となっている委託事業を補助事業に改めるなど運営方法を見直し、入場料を上げるなどによる財源の確保を検討されたい。その際に、市民団体に過剰な負担をかけることのないよう経費の削減を市民団体とともに検討されたい。 ・「生駒市民吹奏楽団」については、結成3年目であることから立ち上げを支援することは理解できるが、今後は、入場料を徴収するなど、運営方法の見直しを検討されたい。 ・また、今後においても市民の音楽力を生かした取組を進め、音楽を通してシビックプライドを醸成できるよう、音楽イベント単体で実施するだけでなく、他課と連携した取組にも力を入れられたい。
担当課	生涯学習課
R1 予算額	7,611 千円

